

b-labでの啓発事業について

実施日	令和6年10月14日（月・祝）	16時～17時
場 所	b-lab	
参加者	6人 内訳	中学2年生 1人 高校1年生 3人 高校3年生 2人

1 クイズ大会

b-labクイズサークルがこどもの権利に関するクイズを作成し、参加者でクイズ大会を実施した。

2 哲学対話

哲学対話は、参加者自らが「哲学的な問い」をつくり、参加者みんなで対話して楽しむイベントで、今回は、「こどもの権利」にちなんで、「自分が大事にされていないと感じたとき」をテーマとした。

参加者がつくったお題の中から、「どうして、仲間はずれにしちゃうの?」と「なぜ、人に流されるの?」を選び、2つのグループに分かれて対話を行った。

3 所感

こどもたちが作成したクイズと区職員による補足説明を通じて、こどもの権利について理解を深めた。

また、哲学対話により、こどもの権利について自分事の身近な問題として考えるきっかけとなった。

「子どもの権利」 クイズ企画

企画・B-labクイズサークル

第一問

- 子どもの権利条約が採択されたのは、元号が平成に代わった後である。○か×か。

答え：○

- どちらも1989年の出来事だが、平成になったのは1月で、子どもの権利条約が採択されたのは11月。意外と最近。

第二問

- 次のうち、子どもの権利条約を締結している国と地域の数に最も近いものはどれ？
- A:50 B:100 C:150 D:200

答え：D.200

- 196もの国と地域が批准している。
世界中で認められているものである。

第三問

- 次のうち、子どもの権利条約で子供の権利として認められている権利をすべて選んでください。
- A.命を守られて生きる権利
- B.医療や教育、生活支援を受けて育つ権利
- C.力や搾取から守られる権利
- D.自由に意見を表明して活動に参加する権利
- E.選挙権

答え：A,B,C,D

- 選挙権などを除き、子どもにはあらゆる権利が認められている

第四問

- エリクソンが提唱した心理発達段階によると、13歳から22歳の青年期での発達課題（重要なこと）は何？
- A. 勤勉性を育む
- B. アイデンティティの確立
- C. 基礎信頼を育む
- D. 親密性を育む

答え：B.アイデンティティの確立

- アイデンティティ…「自分はどんな人間であるか」
- 青年期は「自分は何者か」「どのような価値観を持ち、将来どんな方向に進むべきか」を思い悩む時期
- 多様な経験を積むことが重要であり、子どもの権利によりそれをサポートすべきである

第五問

- 各国の条約の実施状況などを調査したり、助言したりする「国際子どもの権利委員会」があり、世界から選ばれた18人が所属している。では、この委員会には日本人メンバーがいるかいないか。

答え：○

- 弁護士の大谷美紀子さんが、唯一の日本人メンバーとして活動している。

第六問

- 2021年に大阪府の高校の元生徒が「生まれつき茶髪なのに校則により髪を黒に染められ不登校になった」として、大阪府に損害賠償を求めた訴訟の判決が出た。さて、生徒の訴えは全面的に認められたか。○か×か

答え：×

不登校後の学校の対応は違法とされたものの、頭髪指導に関しては違法性が否定された。入学時に地毛について配慮してほしいと親から伝えられたにもかかわらず黒染めを強要し、何度も染めたにもかかわらず「不十分」と指導されたという。

法整備の大切さについて考えさせられる。